

相模湾のマルイカ仕掛け例
 竿II全長16~18m マルイカ専用竿
 道糸=PE1号 前後
 先糸II 4号 1.5m
 1m
 幹糸II 4号
 捨て糸II 3号 1.2m
 オモリ=40号
 リールII小型両軸
 ※6本ツノ

•Tackle Guide
 マルイカが小型主体でアタリが微妙なため直結仕掛けが有利だが、船長は取り込み慣れていない人にはミックス仕掛けを推奨。上半分を直結、下半分を直ブラにすると、多少取り込みでもたついても直ブラに乗ったマルイカは外れにくいので、取りこぼしが減るとのこと。

に浮いているようだ。その後は水深15~18メートル付近を探り、流し変えるたびに船内のどこかしらでマルイカが上がる展開が1時間ほど続く。このころには平塚や茅ヶ崎方面のマルイカ船も合流し10隻ほどの船団になっていた。



▲トップを自作したゼロテンロッドでマルイカの乗りを楽しんだ伊藤さん。7月も相模湾のマルイカは期待できそうだ
 ▼後半は名島沖の浅場に葉山あぶずり港のマルイカ船が集結

例年6月といえば浅場でマルイカが釣れる時期。しかし今年は、早春から釣れ続けている外房小湊沖を除いて、内房、三浦半島、相模湾、伊豆半島など主なマルイカ釣り場で気配すらない状況。今年の浅場は望み薄か……とあきらめていたファンもいたことだろう。

周囲にはアンカリングして釣りを楽しむ手こぎボートが浮かんでいるため、引き波を立てないようにゆっくり船を進めてリサーチ。しかし反応が見られず再び移動となる。15分ほど走って長井沖の定置網周り、水深45メートル付近に到着。ここは例年実績が高いポイントとのこと、しばらくリサーチして投入合図が出る。

すると木内さんが着乗りで巻き上げ胴長15センチ級のマルイカを釣る。いい群れに当たったのか、木内さんはタタキ、止め、巻き落としを繰り返して、2投、3投とハイペースの手返しで釣り上げていく。

しかし、こうしたものか釣れるのは木内さんだけで後が続かない。「これは新群れでスレていはいはずだし、底から3~7メートルまで大きな反応が出てくるから、もっとみんなに釣れるはずなんだけど……。やっぱり例年と様子が違いますね」と船長も困惑している。



山信一郎船長に近況を伺った。「最初に釣れ始めたのは(葉山沖)名島周りの水深15メートル前後ですが、昨日は鎌倉沖の水深15~20メートル前後でも模様がありました」



▼小さなアタリをとらえて掛けたときが楽しい

12時半過ぎ、名島沖で好反応を見つけた僚船から連絡があり本船も急行。到着すると、昼過ぎから風が強くなったため手こぎボートは戻ったらしく、本船と同じ位置網にどっさり入網するそうだが、今年はずっとに捕れる程度で量も少ないようだ。

では、どうして突然マルイカが浅場に出現したのだろうか。「最近、港前の浅場でシラス漁が好調なんです。その群れを追ってどこかに潜んでいたマルイカが浅場に乗り込んできたのかもしれない」

定置網にどっさり入網するそうだが、今年はずっとに捕れる程度で量も少ないようだ。

と話してくれた。**着乗り勝負!** 6時半に港を離れ、15分ほど走って鎌倉沖に到着。しばらく周囲をリサーチして投入合図が出る。水深は16メートル。直結仕掛けで着底と同時にタタキを入れ、ピタッと止めてゼロテンでアタリを見ていた右トモの木内さんと左トモの伊藤さんが巻き上げる。

先に上がった木内さんは、一番上のケイムラのハダカスツテに抱きついた胴長10センチ級のかわいいマルイカ、続いて伊藤さんが胴長15センチ級を取り込む。反応は出ていないものの、後が続かず潮回り。すると再び

13時半に沖揚がり。釣果は0~10杯。トップは木内

魚探とソナーに濃厚な反応が出ており、およそ30分以上の大流しとなったが、難易度の高い状況に対応して数をのばした人がいる一方、慣れている人は思うように乗せられなかったようだ。

続いて右胴の間の二人が同級を取り込み、ついに入れ乗りタイムの到来! と思ったのだが、アタリはあれど抱き弱いのか思うように掛けれない人が目立つ。そんな中、1杯、また1杯と乗せている右胴の間氏はタタキを入れ、ピタッと止めてゼロテンで待ち、巻き落としを繰り返す。そしてアタリが遠のくといったん仕掛けを上げ、オモリを速めに投げて再投入。船下のスレた群れを避け、船の周りにいる群れの中に仕掛けを入れるイメージで釣っているようだ。

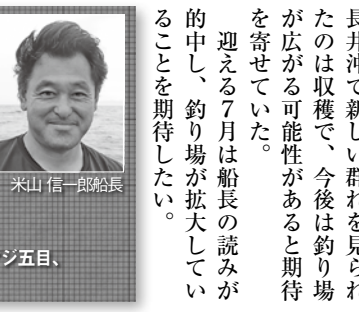
今日は反応を探して回る時間が長くなり、潮具合も今ひとつで乗りがよくなかったと、船長は残念そうであったが、長井沖で新しい群れを見られたのは収穫で、今後は釣り場が広がる可能性があるかと期待を寄せていた。

木内さんが着乗りで2杯目を上げ、続けて3杯目を追加。いずれも乗ったのは一番上のツノ、活性が高いイカは宙層

今日のは反応を探して回る時間が長くなり、潮具合も今ひとつで乗りがよくなかったと、船長は残念そうであったが、長井沖で新しい群れを見られたのは収穫で、今後は釣り場が広がる可能性があるかと期待を寄せていた。

●船宿information
 三浦半島葉山あぶずり港
愛正丸
 ☎090-3683-0914
 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=マルイカ乗合一人 9500円。
 水は港の漁協で販売
 ▶備考=予約乗合、6時出船。ほかアジ五目、根魚五目へも出船



▲10杯釣った木内さんが竿頭



知得! Tips and Tricks
ゼロテン竿の替え穂先制作
油性マジック塗装で時間短縮

当日同船した伊藤さんの竿はトップ(穂先)を自作したゼロテンロッド。替え穂先を何本も自作しているのだが、1本作るのに2~3時間と聞いて驚いた。時短の秘策は、ガイドはチューブと接着材で取り付け、油性マジックで塗装をすませること。通常の塗装は乾燥に時間がかかり数日かかるそうだが、マジックならすぐに乾く。極細穂先はいわば消耗品なので、伊藤さんはこれで十分とのことであった。

▶伊藤さんは常時5~6本の替え穂先を持参